



知事コラム

大きな物語～課題解決先進県・埼玉へ～



1992年、米国の政治学者フランシス・フクヤマ氏は「歴史の終わり」という大著を世に問いました。政治体制としての「民主主義」と「自由主義」が冷戦に勝利したことにより、問題はあったとしてもこれを上回る体制は

ないことが歴史上証明されたという内容でした。

同時期に米国の政治学者サミュエル・ハンチントン氏が発表した「文明の衝突」も刺激的な著作でした。冷戦が終結したことにより、「自由主義」VS「共産主義」というイデオロギーの対立が終焉し、これまで封印されていた宗教と民族の衝突が始まるという予言でした。実際、宗教と民族の対立は

その後エスカレートするばかりです。

そうした中、フクヤマ氏が最良の体制とした民主主義と自由主義にも陰りが見えています。渋沢栄一翁の玄孫で公益財団法人日本国際交流センター理事長の渋澤健氏がフクヤマ氏と直接お話した際、フクヤマ氏は現在の民主主義の課題は、機関や体制の衰退(decay of the institution)にあると指摘されたそうです。そして、その衰退の理由として①環境が変わっても変革できない、②既得権を持つインサイダーが支配し続けている、という2点を挙げられたとのことです。

産業革命以降の世界は、人口増、そして成長とインフレが基調にあり、議会制民主主義は増大する富を配分する機能を中心に担ってきました。

日本でも、終戦の年である1945年の人口は7000万人余り(現在は約1億2800万人)にすぎ

ず、また主要都市が空襲で廃墟になっていたこともあって、インフラ整備を含めまさに人口増、成長、インフレという高度成長の時代が続きました。

しかし、1995年には日本のGDPと生産年齢人口はピークを打ちます。それ以降は人口減少、低成長とデフレの時代を迎えましたが、議会制民主主義の「富を配分するクセ」はなかなか直りません。このため、国家債務は増加するばかりです。

世界各国において低成長やデフレといった問題に悩むいわゆる「日本化」が進む中で、今年は日本が課題解決先進国になる、いや埼玉県だけでも変革を実現し、課題解決先進県になる転機にしていきたいと考えています。

埼玉県知事 上田清司